

## 第6章 誘導施策

### 1 基本的な考え方

本市の人口分布の特性などを踏まえ、都市機能や居住の誘導に当たっては、誘導施策を段階的に検討・実施することを基本的な考え方とします。さらに各誘導区域内での届出制度を活用することにより、事業者や市民の意識の醸成を図っていくことで、段階的に都市機能や居住の誘導を目指します。

### 2 居住誘導区域における施策の方針

居住誘導区域では、持続的な居住地を形成するため、以下の施策に取り組む方針とします。

- 居住誘導区域に存在する空き家（空き店舗等を含む）を利活用する際、改修工事費などに対し、補助金の交付を検討します。
- 居住誘導区域内に転入・転居して戸建て住宅を建築する方を対象とした優遇制度の新設を検討します。
- 起業者が開業することにより、地域でのサービスが活発になるよう、創業支援補助金を交付するなど、創業・起業に対して支援を進めます。

### 3 都市機能誘導区域における施策の方針

本計画で設定した2つの都市機能誘導区域では、都市の拠点としての魅力づくりのため、以下の施策に取り組む方針とします。

#### （1）江南駅周辺地区

- 市内各地からのアクセスの良さや高容積に建築することができる土地利用を活かすとともに、地域の意向を踏まえた魅力ある中心市街地の形成を図るため、（都）江南通線の整備を進めるなど、江南駅前の市街地開発の検討を進めます。
- 地区内に存在する中央公園は、市街化区域内最大の面積を有する公園であることから、中心市街地の魅力の向上を図るため、民間活力の導入も検討しながら公園施設の改修による環境の改善や景観の向上などにより利用者の増加を図り、イベントの開催などによる活用の推進を検討します。

## (2) 布袋駅周辺地区

- 民間活力を導入し、新たなにぎわいや交流を創出するため、図書館や子育て支援センターなどを備えた布袋駅東複合公共施設の整備を進めます。
- 駅周辺にふさわしい魅力的な市街地を形成するため、鉄道高架化事業や土地区画整理事業を活かし、(都)布袋駅西通線や公園緑地等の整備を行います。

## 4 その他の誘導施策

前述した都市機能誘導区域及び居住誘導区域内での市が実施する施策とあわせ、国からの支援を受けて実施する都市再構築戦略事業や都市機能立地支援事業などの活用を検討することで、都市機能や居住の誘導を促進します。

### □都市再構築戦略事業

適正な都市機能整備を推進する事業を市町村が自ら実施する場合や特定非営利活動法人等が行う事業の整備費を一部負担する場合には、交付率がかさ上げされた社会資本整備交付金による支援が受けられる制度。

### □都市機能立地支援事業

市が所有する公的不動産や低未利用地となっている民有地の有効活用等により、適正な都市機能の整備を民間事業者が整備する場合には、市から賃料や固定資産税などの減免等による支援に加え、国から整備費等の一部について直接支援が受けられる制度。

## 5 公共交通に関する施策の方針

立地適正化計画では、都市機能の誘導を目指す都市機能誘導区域への移動環境や、都市機能誘導区域と居住誘導区域を不自由なく行き来できる移動環境を確保することが重要となります。

本市においては、平成30年3月にコンパクト・プラス・ネットワークの考え方に基づいた地域公共交通政策の考え方を示した「江南市における地域公共交通の基本的な考え方」を定めました。この考え方に基づき、効率的な交通ネットワークが維持確保できるよう、以下の公共交通に関する施策に取り組む方針とします。

### 【各モード（交通手段）の役割と施策の方針】

モード (交通手段)	役割	施策の方針
広域移動とまちの拠点となる「鉄道」 (駅)	名古屋市等との広域の移動や江南市のまちづくりの中心拠点の役割を担う。	事業主体（名古屋鉄道）が中心となり、駅の利便性、鉄道の運行本数等の現行のサービス水準の維持確保を目指します。
ネットワークの骨格となる「路線バス」 (市内路線)	中心拠点と地域拠点や中心拠点間との移動サービスを提供する役割を担う。	財政支援を行いながら、都市機能誘導区域と居住誘導区域内を中心に路線の維持確保に努めます。 また、路線の維持を目指しつつ、利用の状況に応じて見直しを検討します。
周辺都市との移動を担う「路線バス」 (広域路線)	市内と周辺都市との移動サービスの役割を担う。	事業主体（名鉄バス）が中心となって、サービス水準の維持確保を目指します。
駅東の移動を担う「大口町コミュニティバス」	名鉄犬山線東側エリアの市民が利用できる移動手段としての役割を担う。	大口町の協力を得ながら、サービス水準の維持確保を目指します。